

まき

第二號

公民館の使命

倉品 克一郎

「社會教育」といふのは学校の教育課程として行はれる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行はれる組織的な教育活動(体育及びレクリエーションの活動を含む)であります。従つて町村民の教養を高めるための催しや、國家又は府縣の出す法令や種々の勸告等を町村民に普及徹底させるための組織的な活動はすべて社會教育であります。が町村でこれらの催しをやるためにはどうしても中心となる組織が必要であります。そしてこの中心となるものが公民館でありまして本年六月社會教育法と云ふ法律が公布になりましたがその中で公民館は原則として町村が設置すべきことを規定し事業として次の様にあげております。

- 一、定期講座を開設すること。
- 二、討論會、講習會、講演會、實習會、展示會等を開催すること。
- 三、圖書、記録、模型、資料等を備え、その利用を圖ること。
- 四、体育、レクリエーション等に關する集會を開催すること。
- 五、各種の團體、機關等の連絡を圖ること。
- 六、その施設を住民の集會その他の公共的利用に供すること。

この様な事業を行ふに當つては營利を目的としたり、又營利事業に公民館の名稱を利用させたり、營利事業を援助することは固く禁じられております。選舉に當つて全部の候補者の立合演説會は差支へありませんが特定の候補者を支持したり、特定の政党を支援したりすることは出来ません。宗教に對しても

特定の宗教、特定の宗派若しくは教回を支持することは禁じられております。公民館の運営に當つては最も民主的に町村民の總意によつて町を明るくする様に運営する可きであります。卷町でも他の町村に先んじて公民館が設置され又青年團、婦人會、各種体育團體等が結成充實されて公民館を中心にして活動してゐることは誠に結構であります。が未だ創立日尙淺く前途には種々の問題があると思ひます。公民館は町村の「茶の間」とも云はれておりますから獨立した建物もほしいですし、運動場も設けたり圖書や新聞雜誌等も充實させたり、出来れば専任の職員も設けて大いに文化活動を盛んにしたいものです。まず公民館の使命をよく町民に徹底させ町民の盛り上げる要求として充實させて行くべきであります。

郡公民館 連絡協議會發足す

公民館の設置に關してはスタートの遅かつた本郡も各方面の努力に依つて最近急速に進展し、本年に入つて全部その設置を完

「いばら」を除いて
私はいつ死んでもよろしい。
だが私はいつても花が育つと思つたところには、いばらを取除いて花を植えたと、私を一番よく知る人からいはれたい。
……アブラハム・リンカーン……

了したが、かねてから全郡の公民館を打つて一丸とする連合組織を要望されてゐた處、今回愈々その機が熟し六月十一日午前十時より、その名も西蒲原郡公民館連絡協議會として卷町役場に於いて産聲を擧げた。当日は縣社會教育課から吉川課長を迎へ會則の審議、役員の選定等々を行ひ、終つて研究會に移り郡内各地優秀公民館の研究發表、討論質疑應答等があり有益な收穫を得て一日の日程を終へた。今後機会ある毎に協議會を開催し、互に長短相補ひ、切さ琢磨して郡内公民館の健全なる發展に寄與せんことを申し合せた

スポーツだより

体育のことについて

笛木甚一郎

わが巻町の体育面の活動は、従来各部門、例ひば野球部、籠球部、卓球部等々云つた様な...

していふならば総ゆるスポーツ人をして愉快に、しかもスポーツにスポーツを楽しむ様に...

青年團員諸君!

待ちに待った総合体育大会は近づき、日頃きたへた我等が力を試す時が来た。終戦後三連覇を成遂げた我らは總ゆる困難を排して大会場を巻町に誘致するに...

檄!! 大会近づく

御援助と團員諸君の汗の結晶で

巻町青年團出場選手名簿

- 男子 陸上の部 久保田健之輔 二百米 久保田健之輔 四百米 吉田與三郎 四百米 田畑一馬 八百米 山田忠 八百米 本間和夫 千五百米 佐藤正吾 五千米 中村寅雄 八百米...

★巻青アラスバンド誕生!

多年の懸案だったアラスバンドも豫算面で行き悩んでゐたが今回遂に誕生の運びに到つた。...

農家だより

働く婦人の大會に参加

八月一日より一週間全国一せいに「働く婦人の福祉増進運動」が展開された。新潟でも一日に新潟民部事ホールで婦人少年局新海職員室主催で次の七つの目標をかかげて「働く婦人の福祉増進大會」が催され農村婦人代表として久保田トシ、中野ヨシの兩氏が体験発表を行った。

町民運動會

八月開催と決定す

例年開催時期が議論されて来たが今年には各区代表を募集して第一回第二回打合せに於て種々討議の結果、八月三十一日開催と決定した。尙これも問題となる會

- 巻青・アラスバンドメンバー 指導指揮 柄倉九郎先生 クラリネット 佐藤治一 竹内興作 トランペット 西村三郎 コルネット 松野三雄...

農家推薦圖書

- 家の光 (家家庭楽雑誌) 一部 四五四 地上 (農業經營及技術雜誌) 五〇四 組合と農業 (組合の農業) 四五四 農業新報 (縣農業の實際) 四五四 農業新聞 (週一回發行) 五〇四

職業能力の向上...

健康増進... 働く婦人の健康をまもりませう 文化の向上... 働く婦人の教養を高めませう

婦人會だより

生活改善運動 結婚に關する申合せ 近時結婚の擧式、服裝、調度品等に華美を競う風は目に餘るものがあり、その上出産になると亦里方は實用以上に見栄を張る風が盛になり誠に憂うべき事態であると思ひます。...

◆赤サビ會員入會

赤サビ合併と同時に考へられてゐた赤サビ婦人の本會入會は機熟し六十六名の入會を見たので第一回の顔合せを八月一日午後一時赤サビ公會堂で開き、食品會長、松村副會長が列席された式後フタバ洋裁研究所袖木女史指導によるブローズ縫ひ方講習を行つた。

◆講習会開催報告

一、日時 七月三日 午後一時より
 会場 卷女子高校
 講師 三笠屋主人
 科目 お講し三種
 二、日時 七月廿一日
 会場 女子高校
 講師 袖木女史
 科目 洋裁 開キンシャツ

料理の講習は受講者の方々に非常に喜ばれた様である。煩はしい後始末も受講者の御協力により迅速にすんだ事は感謝して尙今後も受講能率を上げる爲お互に時間を大切にし度いと思ふ又お若い方々にもつとく出席して頂いて生活の合理化の一助にもして頂き度いと思ふ。

文庫だより

アダノの鐘

ジョン・ハーシー著
 杉木 喬譯

この小説の主人公はヴィクター・デヨボロといふ陸軍少佐で善人であつた。少佐はイタリヤの一小都市アダノ町の「占領地聯合国軍政府」附將校で、米軍進駐後は、大体アメリカ人の市長といつた格であつた。アダノの鐘は七百年前に出来た鐘で十五分毎に鳴りひびきアダノの町の町民の精神の糧となつていたものだつたが、弾丸が何かにつかうために徴集されて町にとつて如何に大切なものであつたかを知つた少佐はこの鐘を何んとか取りもどしてやりたいものだと、それ以來忙しい仕事の合間に鐘の行方を一生懸命にさがしたが遂にそれは造兵しようの門をくぐつてしまつてゐることが分つたので少佐はその後海軍と渡りをつけて驅逐艦「コレリ号」の鐘をもらひ遂に市廳にさげこの町に新しい鐘を鳴りひびかしたのである。この小説は一九四四年ベストセラーになりアメリカ讀書界をにぎわしたが翌一九四五年にはピューリツァ賞を獲得した。

レクリエーション……

戦後使われ始めたレクリエーションといふ言葉は氣晴し、慰安、元氣回復、保養氣分を爽快ならしめる意味である。日本語には適當な譯語がないが米國から特に此の問題のため來られたワルト・A. コックス博士は「レクリエーションとは生活を明るく楽しく豊かに而も建設的に送ることである」といつてゐる。娛樂により餘暇を善用するといふところから發展し建設的教育的意図で運営される一種の文化運動である。正しいレクリエーションの基本條件として
 1 單なる遊びの代名詞でなく次への活力としてのものたること
 2 健全なるものたること
 3 可成多数で行ふものたること
 4 自ら行ふことを本質とすること等があげられる。

★新しく入つた……

- 如何に生くべきか 天野貞い
- 母の教育相談 霜田静志
- 哲学入門 田邊 元
- 世界史概説 上下 今井登志喜
- あし折れぬ 千野敏子
- 若い折れぬ 上下 石坂洋次郎
- 君失ふこそなけれ 富田常雄
- 道標 第二部 宮本百合子
- アダムの日記 マークトウエイン
- アダノの鐘 ションハーシー
- 大 地 第一部 パールベック
- 三 國 志 八 吉川英治
- 社會科 地シんと災害 矢島清吉
- 文庫 火災と消防 可和博
- 安全運動 久保田明光
- お金はどこから 林 要
- 音楽のはなし 諸井三郎
- 都會といふな 松尾俊郎
- 家庭生活 籠山 堂
- 重工業と輕工業 豐崎 みのる
- 新しい警察 波邊宗太郎
- 富の生産と分配 山田雄三

八月行事集會案内

- 一日 婦人會赤サビ入會記念、洋裁講習會 於赤サビ公會堂
- 卷海紅句會 俳句の會 於細山金剛宅
- 七日 婦人會料理講習會 魚の身下しと委節野菜料理
- 十日 夜給の集り 講師 三笠屋主人 於女子高校
- 現代美術展について 於佐藤吉五郎宅
- 十二日 午後六時 青年團 記録會 於卷高校グラウンド
- 廿日 第四回西蒲原郡連合青年團体育大會 於卷高校グラウンド
- 二十五日 短歌の會 萬葉集の會 於齋藤順作宅
- 二十七日 第三回縣連合青年團体育大會 於新發田市
- 二十八日 毎週水曜日(山びこ會) コーラテ練習日 於女子高校

◆募 集◆

論 説 町民の聲
 隨筆、小品文 短歌、俳句
 詩 其の他
 いづれも原稿用紙使用のこと
 宛先 公民館又は編輯委員

編輯後記

第二號を送る。みんなの力で力強く育てゆきたいものと思つてゐる。町民の皆さんの積極的な御批判、御投稿を御期待いたします。